

## 巻頭言

### 学会活動のプライオリティ

会長 佐川 和則

大阪体育学会が（一社）日本体育学会の支部を兼ねなくなって2年が経過しました。日本体育学会でこの措置が決まるのに前後して、大阪体育学会の理事会では特別委員会を設置しこの対応について検討が行われました。それは、この措置により大阪体育学会を退会する会員が相当数予想されたからです。会費収入が減少すれば、それまでの学会の事業は縮小せざるをえず、その場合どの事業を残しどの事業を削ればよいのか、つまり学会の事業に優先順位をつけることが求められたのです。

特別委員会の結論はすぐに出ました。事業の優先順位の第1位は機関誌「大阪体育学研究」の発行、そして学会大会の開催でした。振り返ってみれば学会として当然の判断ですが、講演会や研究会の開催は優先順位としては低く開催が危ぶまれたのです。しかしふたを開けてみると、退会する会員数は限定的で、学会の事業はこれまで通りすべて実施されることになりました。

特別委員会で話し合われたことは、学会の活動に優先順位をつけることだけではありませんでした。魅力ある学会にするためにはどうすればよいかも話し合われたのです。その一つに「大阪体育学研究」の審査の迅速化と即時公開化（電子化）がありました。現在、「大阪体育学研究」に投稿された論文は、速やかに審査が行われ採択されたものから随時ホームページ内にある公開サイトに掲載されています。そして1年分の掲載論文がその年度の冊子版「大阪体育学研究」として発行されています。現在、その掲載論文数は電子化される以前の数を大幅に更新しています。

理事会および編集委員会は動画つき論文の掲載など、今後も「大阪体育学研究」の改善に取り組んでまいります。会員の皆様においては、ぜひこの掲載論文公開サイトをご覧いただき、「大阪体育学研究」への投稿をお願いします。